

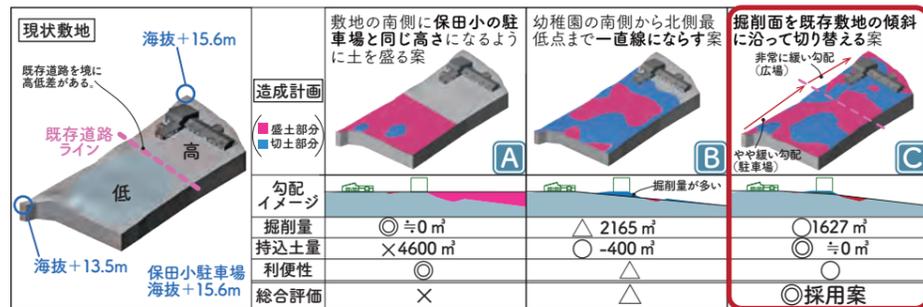


西側のどうぶつ庭から見るたくさんの人で賑わうみまもり広場

経済的・効率的な「わかか」
環境負荷を低減するパッシブデザインの計画とランニングコストの提案

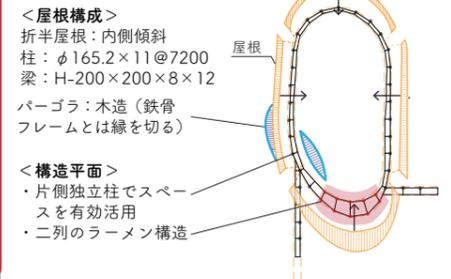
■土の搬出入量ゼロ

敷地周辺の微地形をモデリングにより解析し、敷地造成時のプール部以外の**持ち込み土量が0**、かつ**既存敷地に沿った掘削量を少なく抑えた造成計画**を採用します。

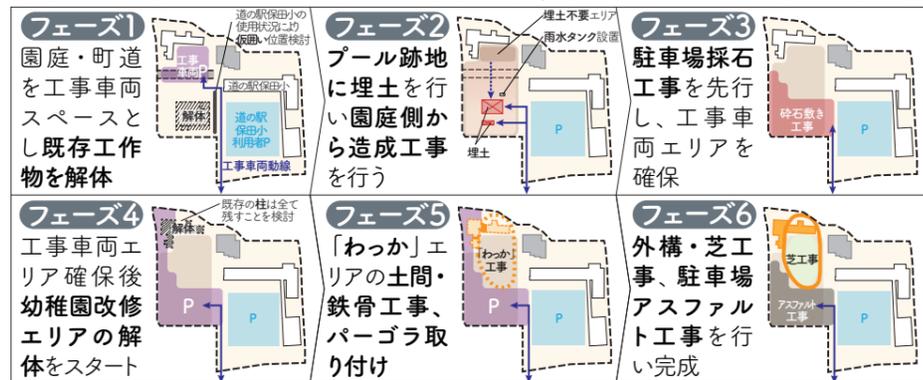


■合理的な構造フレーム

3m幅の屋根は外側に片側独立柱とし、幅広の屋根は2列の柱のラーメン構造とします。



■道の駅保田小・給食センターの運営を妨げない、フェーズごとの工事計画

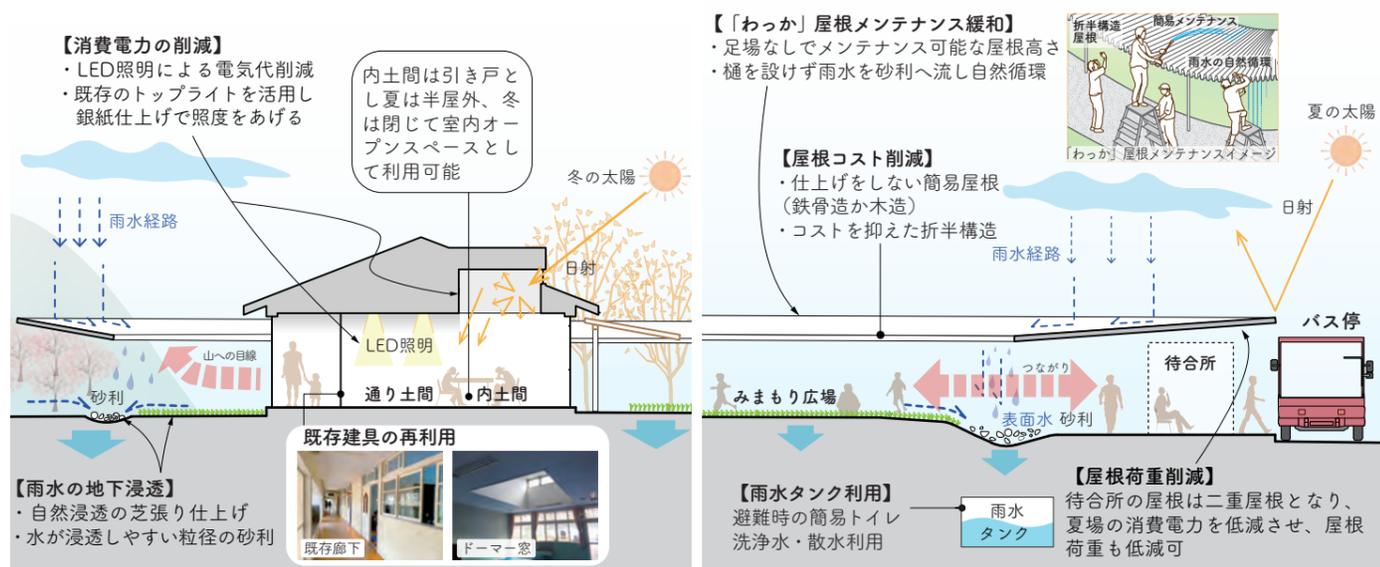


■木の温もりを感じる室内空間

プレイカフェやまちのオフィスなど体が長時間触れる面に**地域産木材資源を有効活用**し、木の温もりや匂いを感じる、明るくておらかな場所となります。



■自然エネルギー・雨水等を活用したランニングコスト削減計画

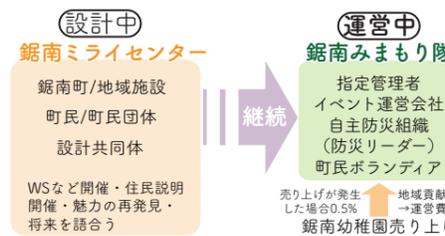


農業の庭や工房から人が行き交う通常時の使われ方をしている通り土間

維持管理・運営計画
■鋸南町全体でとらえる持続可能な施設運営体系づくり

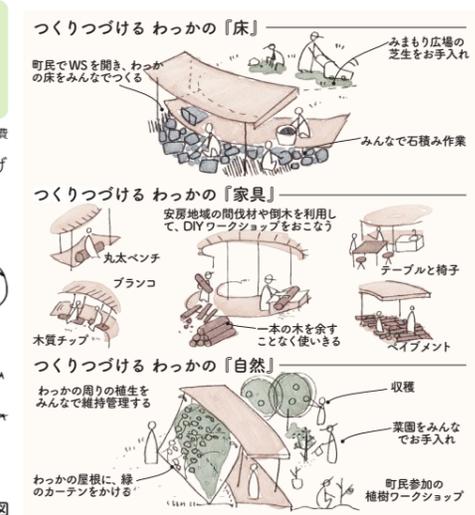
■「鋸南ミライセター」→「鋸南みまもり隊」

計画段階から**現地拠点として「鋸南ミライセンター」**を設立し、共用開始時には**多種多様な主体者による経営を実現する為「鋸南みまもり隊」の創設**を検討します。地域貢献費として売上げの一部を活動資金とし持続可能な運営体制を目指します。



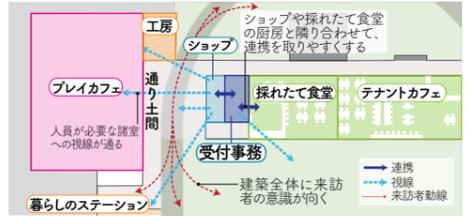
■町民みずから作り続ける「わかか」

子どもが安心して遊べる「みまもり広場」の外周部を囲む**「鋸南のわかか」は、通路でもあり、イベント会場でもあります**。各季節のイベントが開催されます。屋根下のベンチ・デッキ等の設えや鋸南の植物・生態系はWSを開き、**町民みずから維持管理・つくり替えしていくことができるようなつくり**とします。鋸南町のみらいの受け皿としての「未完成のわかか」です。



■地域に学び、「わかか」で働く

見通しの良い通り土間に受付・事務とショップを隣接させ、**人件費を削減**します。幼稚園建物の裏と表を結び位置に配置することで、**建物全体に訪客者の意識が向く**構成になっています。



■道の駅保田小から連続し、わかりやすいサイン計画

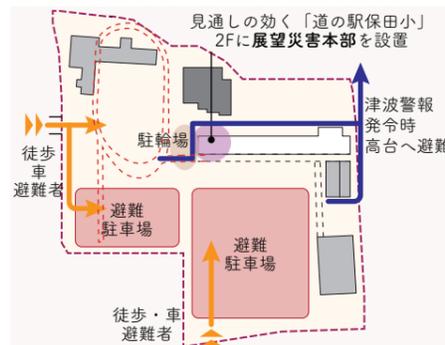
道の駅保田小で採用されているサイン計画を踏襲し、**シームレスな体験の流れ**を鋸南幼稚園まで繋ぎます。**活動の種類によって三色に配色**し、色と文字を活かしたより感覚的でわかりやすいサインをまちの方々と模索して参ります。



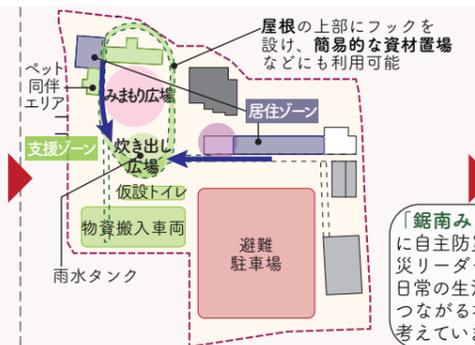
町民・利用者のための防災拠点
■防災時の状況に応じたフレキシブルな利用計画

救命・避難期（発災～避難直後）
生活保護期（～数週間程度）
活動再開期（発災数週間後～）

多くの避難者・怪我人が押し寄せる初期に備え、**多方向からのアクセス路を準備**します。見通しの効く位置に本部を設置し避難者を誘導します。津波警報発令時には**高台へ避難しやすい動線を確保**します。



道の駅保田小を居住ゾーンとし、予備的に幼稚園の遊戯室を活用します。**みまもり広場は避難生活のストレスを軽減させ集会場としても活用可能**です。雨の日は濡れずに炊出し広場へアクセスできます。



避難生活者を受入れつつ、スムーズに活動を再開するため、**帰宅困難な避難者の収容人数に応じて活動再開エリア**を広げていきます。

